



地区住民による蓮浄院の清掃整備

一般質問



森田増範議員

問

志賀直哉の暗夜行路執筆の地、蓮浄院は地権者問題が解決し、本年度当初予算に蓮浄院整備測量設計委託料が200万円計上された。自然と歴史の大山に新たな文化の魅力を加え、大山活性化へ期待したい。

しかし、多額の事業費を要することであり、十分な協議・計画が望ま

「蓮浄院」整備は

大山寺全体の将来像を見据えて

る。

(1) 整備計画・利活用策は、波及性を高めるためにも、蓮浄院活用とあわせ、大山寺地区活性化の10年ビジョンをたて、計画的に取り組むべきでは。

答

(山口町長)

文豪志賀直哉の長編小説「暗夜行路」最終章の重要な部分を、大山における主人公の行動描写が占めており、その主人公が滞在した舞台になっているのが、大山寺の支院「蓮浄院」である。筆者自身が滞在し、その体験に基づき描写することは有名である。

(1) 現在、教育委員会で蓮浄院周辺を中心とした僧坊跡の調査事業を行っており、最終的に平成20年を目標に国の史跡指定を目指すしている。調査結果もふまえ、このエリア全

体の活用方策について慎重に検討したい。

(2) 単に蓮浄院整備という単発事業にとどまらず、阿弥陀堂を含めた西明院谷地区、そして大山寺地区全体の将来像を見据えた整備計画とする必要があると考えている。

また、この冬の豪雪により建物の大半が倒壊していたが、先般県教育委員会による文化的価値調査を行うとともに、地元住民により、境内の清掃整備を行った。

解説・蓮浄院問題

志賀直哉ゆかりの地

文豪・志賀直哉の代表作「暗夜行路」の舞台として実名で記述され、直哉本人も10日間滞在したことで知られる大山寺・蓮浄院。

旧大山町では、平成14年、観光振興を目的に、荒廃する蓮浄院を買収し、「志賀直哉記念館」として整備することを計画した。「記念碑の類は一切断ること」という直哉の遺言を尊重する直哉の遺族の反対からこの計画が断念せざるを得なかったが、夏山登山道の入口という立地と直哉とのかわりを生かした整備が継続して検討されている。

蓮浄院は、江戸時代中期に建てられた大山寺の支院の一つで、以前は宿坊・旅館業として運営されていたが、平成2年に住職が亡くなった後は、旅館業も廃業。平成8年に無人となつてからは、

老朽化が進んでいた。

買収は宗教法人蓮浄院とはおおむね合意ができているものの、平成4年に蓮浄院を一部修復する際に費用を負担した広島県在住の男性が、改修した離れを自分の名義で登記していたことから、蓮浄院と男性の間で争いとなり、買収協議も難航、整備計画の具体化も中断していた。

裁判で争われた所有権問題は、昨年、蓮浄院側の主張が認められる判決が出され、買収の途が開かれたことから、整備の検討が再開。この冬の大雪で建物がついに崩壊したが、3月には「昔の状況がしのばれるような状態で復元して欲しい」と大山活性化方策検討委員会(河妹晃座長)の提言が町長に提出されている。